国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター

内科専門研修プログラム

2027 年度版



目　次

内科専門研修プログラム

1.理念 1
2.使命 1
3.概要と特徴 2
4.研修目標 3
5.募集定員 4
6.専門知識、技能の習得 5
7.経験目標 9
8.教育・学術活動 10
9.専門研修の方法 11
10.専門研修の評価時期と方法 14
11.評価の責任者 15
12.修了判定基準 15
13.プログラム運用マニュアル・フォーマットの整備 15
14.研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件 16
15.サブスペシャルティ領域との連続性について 17
16.研修プログラムの管理運営体制 17
17.指導医のフィードバック法の学習（FD） 18
18.内科専門研修プログラムの評価と改善方法 19
19.専攻医の採用 20

内科専門研修施設群

1.専門研修施設群の構成要件 23
2.内科専門研修基幹施設 24
3.内科専門研修連携施設 28

1.理念

- 本プログラムは、広島県呉二次医療圏の中核病院である国立病院機構（NHO）呉医療センター・中国がんセンターを基幹施設とし、広島圏内の連携施設、特別連携施設において幅広い内科研修を通して高齢化を迎えた地域の実情を理解し、医療を実践します。

- 専攻医は指導医のもとで全人的・標準的な内科研修を行い、内科医として必要な知識・技能・態度を習得します。また、幅広い症例を経験することを通して、プライマリケアを含む適切な内科医療を、人間性を持って患者に提供できるようになります。経験した症例は、科学的根拠や自己省察を含めて病歴要約として記載し、複数の指導医による形成的指導を受け完成させていきます。さらに学会での発表や論文執筆を通して知識をふかめ、発信していく能力を身につけ、常に新しい情報、技術を学ぶ姿勢を修得することにより標準的で安全な医療を提供します。こうした医師としてのプロフェッショナリズムやリサーチマインドを修得し、内科医療を実践するリーダーとしての能力を涵養することができます。

2.使命

- 広島県呉二次医療圏を主たる研修の場とし、超高齢化を迎える日本を支える内科専門医として、1)高い倫理観を持ち、2)最新の標準的医療を実践し、3)安全な医療を心がけ、4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、地域住民の健康を守ります。疾病の予防、急性期から慢性期に至るまで内科医の果たす役目は広く、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる能力を養うことにより、ジェネラルティとサブスペシャルティが調和した内科医を養成します。研修終了後も臨床研究・基礎研究を行う為、リサーチマインドを持って学術発表などの活動を行います。

3.概要と特徴

- 本プログラムでは、予防、急性期から慢性期に至るまで、シームレスな医療を実践することができます。超高齢化地域において我が国の医療の将来像を俯瞰しつつ研修することができます。総合内科医としてジェネラルなマインドを持ちつつサブスペシャルティ研修を並行して行うことができ、研修終了後には総合内科として活躍することが期待されます。研修期間は、３年間です。

- 呉医療センター・中国がんセンターは広島県呉二次医療圏で唯一の３次救急指定病院であるとともにがんセンターとして全国がんセンター協議会に加盟し、先進的で高度ながん診療を行っています。救急からがん診療まで内科で必要とされる領域を網羅し、近隣の病院、診療所との深い連携を保ち、地域住民の健康を守っています。臨床研究部では、臨床研究以外にも分子生物学的研究が可能な実験設備を擁し、基礎研究も可能です。

- 広島西医療センターは広島県西部の大竹市にあり、神経難病、血液内科、呼吸器内科を中心に研修が可能です。また、東広島医療センターは広島中央二次医療圏の中核病院であり、二次救急医療と幅広い内科系疾患を経験できます。結核病棟を有し、広島県の拠点病院として機能しています。広島市立広島市民病院・北部医療センター安佐市民病院、県立広島病院、広島赤十字・原爆病院は広島市全域からの患者を幅広く経験できます。庄原赤十字病院は、広島県北東部に存在し、高齢化進んでいる地域の中核病院です。２次救急に対応する中核病院としての役割からプライマリケアといった１次救急までの対応を行っており、急性期のみならず、回復期、慢性期、在宅医療まで幅広く診療に関わることができ、包括的かつ全人的医療が経験できます。済生会呉病院は呉地域の地域医療に根差しており、とくに高血圧の管理、消化器疾患に力を入れています。高齢者医療を中心にした内科診療を経験できます。

- 呉医療センター・中国がんセンター、東広島医療センター、広島西医療センターは国立病院機構（NHO）の病院であり、NHO が主催する良質な医師を育てる研修（内科各領域研修、腹腔鏡セミナー、救急診療、シミュレーション研修など）・チーム医療研修などを通して質の高い後期研修医の育成に努めており、スキルアップのために専攻医も業務として参加が可能です。

- 呉地域は高齢化率が全国平均を上回っており、高齢者診療が内科の中心になっています。済生会呉病院は基幹施設と連携をとり総合内科診療を行っています。また済生丸による島嶼部の往診も行い、急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応し地域に根ざした連携を行っています。

- 温暖で風光明媚な安芸灘の島嶼部にある、特別連携施設の公立下蒲刈病院は、地域の中心的な病院として島嶼部の診療所での診療を含む医療を提供し、基幹施設との連携も良好です。島嶼部過疎地域での幅広い疾患の診療を全人的に行うことができます。

4.研修目標

研修の成果

- 内科医の地域医療への関わる場は 1)地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医) 、2)内科系救急医療の専門医、 3)病院での総合内科(generality)の専門医 4)総合内科的視点を持ったサブスペシャリストなど多岐にわたりますが、その場に応じた役割を果たし、住民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって求められる内科医師像は異なりますが、必要に応じた役割を果たし可塑性のある幅広い内科専門医を輩出することが求められています。
- 本プログラムでは、幅広い研修を行うことにより、1)-4)のあらゆる場面に対応できるような内科医を養成します。

5.募集定員

４名/年

- 現在後期研修医が 16 名在籍し、これまで１学年 3-6 名程度で推移しています。連携施設の後期研修医も１学年２名程度であり、剖検症例数や相乗りする広島大学内科専門研修プログラムからの専攻医を考慮し、４名を募集定員とします。
- 剖検は 2024 年５体, 2025 年４体です。施設群全体では９体です

表 1. 診療実績(2025 年度 入院患者数)

	入院患者数	外来延患者数
総合内科	--	3723
消化器	1437	20053
循環器	870	10100
内分泌	39	9832（代謝含む）
代謝	91	--
腎臓	486	5939
呼吸器	1367	7354
血液	764	10561
神経	512	7947
アレルギー	88	--
膠原病	151	6754
感染症	218	--
救急(内科)	985	505

- 内分泌疾患は外来通院患者が多いので症例は十分と考えます。
- 総合内科は外来診療での経験が中心になります。

6.専門知識、技能の習得

6-1 到達目標

研修終了までに70疾患群200症例以上を経験し、病歴要約を修了認定に必要な通算２９症例分作成のうえ、専攻医登録システム（以下、J-OSLER ：Online system for Standardized Log of Evaluation and Registration of specialty training system)に登録します。

- ２年次終了までに 56 疾患群 160 症例以上が経験できるような体制をとります。月２回の内科カンファレンス時に翌週の入院予定を提示し、経験していない症例を割り当てます。
- 内科をじっくり研修したい方は、４-６月は消化器中心、７-９月は循環器中心のように入院症例の領域を自分でコントロールすることができます。
- 救急外来の walk in 患者（総合診療科）の診療を週１回、初期研修医とともに行います。ここで内科系急性期疾患のほとんどを経験することができます、

１）１年次

- 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群 60 症例以上を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。
- 病歴要約を 13 例以上作成し、登録します。

２）２年次

- ２年次の研修が修了するまでに、修了認定に必要な 56 疾患群 160 症例以上(外来症例は 1 割まで含むことができる)を主担当医として経験し、登録することを目標にします。
- 病歴要約を修了認定に必要な通算 29 症例分作成、J-OSLER に登録します。
- 登録した病歴要約は J-OSLER を通じて査読を受け、指導医の指導のもとで形成的により良いものへ改訂し、受理されるまで改訂を続けます.
- サブスペシャルティ専門研修を開始します。

３）３年次

- 主担当医として、カリキュラムに定める全 70 疾患 200 症例のうち最低でも 56 疾患群、120 症例(外来症例は 20 症例まで含むことができる)以上を経験します。
- 連携施設にてサブスペシャルティ領域の専門研修を並行して行います。
- 内科およびサブスペシャルティ領域の専門医試験受験のための準備をします。

表 2.年次別 70 疾患群の内訳と到達目標

内科専門研修 修了要件(「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」)一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ(高齢者)		1	
	総合内科Ⅲ(腫瘍)		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

※ 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。

※ 各領域について

① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から 1 例ずつ計 2 例提出する。

② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

③ 内分泌と代謝：それぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。 例）「内分泌」2 例＋「代謝」1 例、「内分泌」1 例＋「代謝」2 例

※ 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大 60 症例を上限とし、病歴要約への適用については最大 14 症例を上限とする

- 外来症例については、内科専攻に相応しい症例経験として、プロブレムリストの上位に位置して対応が必要となる場合に限り、登録が可能です。
- 単なる投薬のみなどは認められません。
- 内科研修として相応しい入院症例の経験は DPC における主病名、退院時サマリの主病名、入院時診断名、外来症例でマネジメントに苦慮した症例などにおける病名を想定しています。
- 指導医は研修ログブックの登録内容を確認し、専攻医として適切な経験と知識の修得ができていると確認できた場合 に承認します。不十分と考えた場合にはフィードバックと再指導とを行います。
- また、専門研修修了に必要な病歴要約 29 編をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します。専門研修２年次までに登録を終えた病歴要約は、J-OSLER にて査読を受け、受理されるまで改訂を重ねます。専門研修修了には、すべての病歴要約 29 編の受理と、70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験のすべてを必要とします。

6-2. 専門技能

- 内科領域の基本的「技能」とは、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、 検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の専門医・職種へのコンサルテーション能力が加わるため、特定の手技や経験数で到達したかどうかを表現することはできません。
- 内科研修の中には臓器別で必要な検査・手技が含まれており、これらは技術・技能評価手帳に記載してあります。
- 本プログラムでは、技術技能評価手帳に自己評価欄を設けており、必要な技術技能の評価に役立てるようにしています。
- 特定の手技については、基幹施設で利用可能な「Procedures Consult®」で事前学習し、その後利用できればシミュレーションを経て患者に適用することを推奨しています。
- 各年次の到達目標を以下のように設定します。

1)1 年次：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、及び治療方針決定を指導医とともに行うことができる。

2)2 年次：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、及び治療方針決定を指導医の監督下で行うことができる。

3)3 年次：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、及び治療方針決定を自立して行うことができる。

6-3. 学問的姿勢

１）内科医として患者から学ぶ姿勢を基本とし診療します。

２）科学的根拠に基づいた診断、治療を行います。

３）最新の知識、技能をアップデートし、診断や治療のエビデンスの構築・病態の理解につながる研究を行います。

４）症例報告を通じて深い洞察力を磨きます。

- 呉医療センター・中国がんセンターでは UpToDate®、今日の臨床サポート®、Procedures Consult®、ProQuest®などの IT リソースを利用することができます。
- 内科関連学会や国際学会での発表機会があります。発表するのみでなく、学会参加時には議論ができるよう指導医とともに準備をします。
- 学会発表は、筆頭演者であれば出張旅費や学会参加費は病院が負担します。
- 論文作成において、英語は無料で native check を受けることができます。統計が必要な研究では月１回統計相談会を開催し、統計専門家を招いて開催し、疑問に答える体制があります。

6-4. 医師としての倫理性、社会性など

- 内科専門医として高い倫理観と社会性を有することが要求されます。以下の１０項目については、基幹施設だけでなく連携施設、特別連携施設においても研鑽することができます。
- 連携施設、特別連携施設で研修中は、e-mail や web 会議などで研修会、カンファレンスやプログラムに関する情報を共有します。
- 出席ができなかったカンファレンスについては、資料を回覧の上、閲覧します。

⑴患者とのコミュニケーション能力
⑵患者中心の医療の実践
⑶患者から学ぶ姿勢
⑷自己省察の姿勢
⑸医の倫理への配慮
⑹医療安全への配慮
⑺公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑻地域医療保健活動への参画
⑼他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑽後輩医師への指導

7.経験目標

7-1.経験すべき疾患、病態

- 主担当医として受け持つ経験症例の目標は専門研修を修了するまでに 200 症例以上とします。終了に必要な症例経験は 120 症例です。
- 内科全分野を 70 疾患群に分割し、これらの疾患群の中から１症例以上受けもつことを目標とします。（疾患群は研修ログブックを参照）
- 初期臨床研修中の症例は、修了要件の最大５割（60 症例）まで内科専門研修に取り入れることを認めます。ただし、その症例の指導と評価は内科専門研修の指導医が行い、主担当医として適切な医療を行い、専攻医のレベルと同等以上の適切な考察を行っていると指導医が確認できる場合に限り登録を認めます。初期臨床研修のプログラム責任者は、症例経験が主担当医として適切な症例かどうかを確認します。

7-2.経験すべき診察・検査等

- 内科の習得すべき診察、検査は横断的なものと、分野特異的なものに分けて設定しています。技術技能手帳の自己評価、指導医評価を用いて達成度を確認します。

7-3.経験すべき手術・処置等

- 内科領域のすべての専門医に求められる手技について、技術・技能評価手帳に示しています。
- 手技の習得については、呉医療センター・中国がんセンター内にある呉医療技術研修センターのシミュレータで off-the-job training を行った上で患者に適用することを推奨します。
- バイタルサインに異常をきたすような救急患者や急変患者あるいは重症患者の診療と心停止患者に対する蘇生手技は JMECC® (内科救急・ICLS コース)を呉医療センターにて受講します。３年次には JMECC 指導者講習会の受講を勧めます。

7-4.地域医療の経験

- 基幹施設では、臓器別のサブスペシャルティ領域に支えられた急性期医療を経験すると同時に地域の病診・病病連携の中核としての役割を経験します。東広島医療センターは、地域の中核病院としての役割を果たしているため、幅広い疾患を経験することができます。
- 連携施設においては、サブスペシャルティ研修とともにコモンディジーズも経験し、中核病院との病病連携や診療所と中核病院をつなぐ病診・病病連携の役割を経験します。
- 特別連携施設の公立下蒲刈病院では広島県南部の島嶼部の地域に根ざした医療を経験します。

8.教育・学術活動

- 単に症例経験するだけでなく、これらを自ら深めていく姿勢が内科専攻医に求められます。この能力は生涯にわたって自己研鑽をするために必要です。教育活動と学術活動を目標として設定します。

  1）初期臨床研修医あるいは医学部学生の指導を行います。
  2）後輩専攻医の指導を行います。
  3）メディカルスタッフを尊重し、指導を行います。
  4）内科系の学術集会や企画に年２回以上参加します。
  5）経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
  6）クリニカルクエスチョンを見出して臨床研究を行います。
  7）内科学に通じる基礎研究を行います。

- １）２）については臨床場面及び、呉クリニカルフォーラムや学会発表などの指導も含みます。
- ５）から７）については筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表を２件以上行うことが求められます。
- 呉医療センター・中国がんセンターでは筆頭演者に対しては、年に何回でも学会出張旅費、学会参加費は病院が負担します。

9.専門研修の方法

9-1.臨床現場での学習

- １年次に基幹施設で研修を行います。２年次または３年次のいずれかで、連携施設・特別連携施設で１年間、基幹施設または連携施設・特別連携施設で１年間研修を行います。

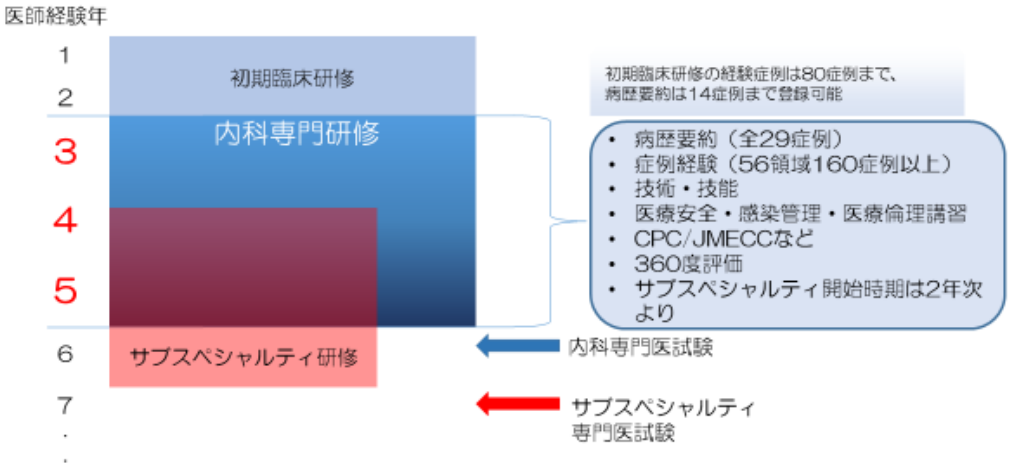


図 1.国立病院機構　呉医療センター・中国がんセンター
内科専門研修プログラム（概念図）

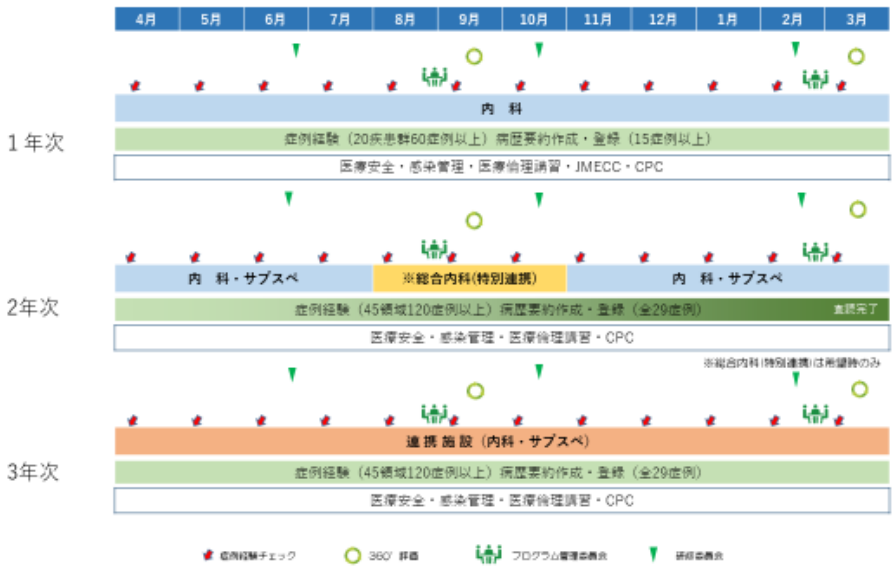


図 2.研修スケジュール例

表３.年次別の内科専門研修内容

１年次	● 内科当直を行います。 ● 連携施設にて１年間研修します。 ● JMECC を受講します（呉医療センター・中国がんセンター）。 ● 緩和ケア研修会を受講します。 ● 医療倫理・医療安全・感染管理講習会を受講します。 ● 病歴要約を作成し、指導を受けます。指導医に許可されたら J-OSLER に登録し、受理されるまで査読をうけ修正します。15 症例を目標とします。 ● 内科カンファレンスに参加します。 ● 学会発表を１回以上行います。 ● 呉医療センター・中国がんセンターの K-INT、院内研究発表会に参加します。 ● 呉クリニカルフォーラムにて初期研修医の発表指導、座長を行います。
２年次 ３年次	● 内科当直を行います。 ● 倫理・医療安全・感染管理講習会を受講します。 ● 全 29 症例の病歴要約を作成し、指導を受けます。指導医に許可されたら J-OSLER に登録し、受理されるまで査読をうけ修正します。 ● 内科カンファレンスに参加します。 ● 学会発表を１回以上行います。 ● 呉医療センター・中国がんセンターの K-INT、院内研究発表会に参加します。 ● 呉クリニカルフォーラムにて初期研修医の発表指導、座長を行います。 ● サブスペシャルティ領域の研修を並行して行います。 ● ２年次または３年次のいずれかで、連携施設・特別連携施設で１年間、基幹施設または連携施設・特別連携施設で１年間研修を行います。 ● 未経験症例を経験し、指導医からのフィードバックを受けます。 ● サブスペシャルティ領域の研修を並行して行います。 ● 内科系の学会発表、論文作成を行います。 ● 呉医療センター・中国がんセンターの K-INT、院内研究発表会に参加します。 ● JMECC 指導者講習会の受講、ICLS での指導を勧めます。

表 4.週間スケジュールの例（基幹施設）

	月	火	水	木	金
午前	血液移植カンファ 神経新患回診	病棟業務 呼吸器回診 血液標本カンファ	救急部カンファ 腎生検カンファ	膠原病外来 病棟業務 血液 HIV カンファ	病棟業務 心臓センターカンファ 消化器抄読会 神経新患回診
午後	膠原病外来 内分泌カンファ・回診 緩和ケア回診	病棟業務 NST 回診	病棟業務 NST 回診 呼吸器カンファ・抄読会 消化器(肝胆膵)カンファ 腎透析・病棟カンファ 神経内科回診	病棟業務 内分泌カンファ・回診 消化器症例検討	病棟業務 RCT 回診 消化器(消化管)カンファ
夕刻	Autopsy board	内分泌勉強会 循環器カンファ 血液勉強会 神経カンファ	心カテカンファ 消化器内視鏡カンファ 消化器合同カンファ（第2） Cancer board	内科カンファ 消化器症例検討	血液カンファ

1）月２回の内科カンファレンスを始め、各診療科のカンファレンスや抄読会などで、EBM、病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。各カンファレンスなどではプレゼンターとして情報検索及びコミュニケーション能力を高めます。

2）初診を含む外来の担当医として経験を積みます。

3）内科領域の救急診療の経験を救急外来・当直に置いて積む。救急外来、内科当直とも週１回程度の頻度で経験します。

9-2.臨床現場を離れた学習

- 抄読会、講習会、内科系学術集会、指導医講習会、JMECC などにおいて以下の１）-５）を学習します。
- 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習は、日本専門医機構が定める専門医共通講習と同等の内容の受講が年２回求められます。

１）内科領域の救急対応
２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解
３）標準的な医療安全や感染対策に関する事項
４）医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項
５）専攻医の指導評価方法に関する事項

9-3. 自己学習

- 研修カリキュラム項目表に基づいて自己学習を進めます。知識、技能・技術、症例に関するレベルを以下のように設定し、目標に達するよう学習を進めます。

1)知識に関する到達レベル

A:病態の理解と合わせて十分に深く知っている。
B:概念を理解し、意味を説明できる。

2)技術・技能に関する到達レベル

A:複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる。
B:経験は少数例だが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる。
C:経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる。

3)症例に関する到達レベ ル

A:主担当医として自ら経験した 。
B:間接的に経験している〈実症例をチームとして経験した,または 症例検討会を通して経験した〉。
C:レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューター シミュレーションで学習した。

- 自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信さらに、日本内科学会雑誌のセルフトレーニング問題や、日本内科学会の行なっているセルフトレーニング問題を活用して学習します。

10.専門研修の評価時期と方法

- 指導医は専攻医が経験した症例に対して適宜フィードバックを行うと共に、病歴要約作成時に症例全体の振り返りを行います。研修手帳は紙ベースの研修ログに書き込みを行い、毎月内科カンファレンス時に進捗状況をすべての指導者と専攻医で共有します。
- 指導者は研修態度や全人的医療の実践をはじめとした医療者としての態度の評価及びフィードバックを行います。
- メディカルスタッフからの 360 度評価を年に 2 回行い、フィードバックします。メディカルスタッフは、担当指導医、サブスペシャルティ上級医、初期研修医、看護副師長、看護師、臨床検査技師、放射線技師、臨床工学士、事務員などを含みます。

- 医局図書室　専攻医担当者が回答を回収し、J-OSLER に入力します。担当指導医は形成的に専攻医にフィードバックし専攻医は評価が低い部分が改善されるよう努力します。
- 技能領域の評価は自己評価および指導医からの評価を得て J-OSLER に登録します。
- 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジットに適切に対応します。

11.評価の責任者

- 担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに呉医療センター・中国がんセンターの内科専門研修プログラム管理委員会で検討し、プログラム統括責任者が承認します。

12.修了判定基準

- J-OSLER に以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることを呉医療センター・中国がんセンター内科専門研修プログラム管理委員会が確認して研修終了１ヶ月前に修了判定会議を行います。
- ３年以内に研修終了できない場合は、６ヶ月単位で基幹施設あるいは連携施設にて研修を延長します。

1）症例登録
2）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）
3）所定の２編の学会発表または論文発表
4）JMECC 受講
5）プログラムで定める講習会（医療安全・医療倫理・感染防御）を年に２回以上受講
6）J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参考にし、社会人である医師としての適性がある。

13.プログラム運用マニュアル・フォーマットの整備

- 専攻医の研修実績と到達度、評価と逆評価、病歴要約、学術活動の記録、および各種講習会出席の記録は J―OSLER を用いて行います。
- 専攻医研修マニュアル、指導者マニュアルは別に示します。
- 専攻医記録は「呉医療センター・中国がんセンター内科専門研修ログブック」に記載し、指導医の承認が得られたら J-OSLER に登録します。呉医療センター・中国がんセンターの医局図書室　専攻医担当者は毎月専攻医の登録、指導医の承認状況を確認し、内科カンファレンス時に指導医と専攻医にフィードバックします。

14.研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

- やむを得ない事情により内科領域内でのプログラムの移動が必要になった場合、J-OSLER を活用することにより、異動前のプログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を可能とします。
- 他の領域から内科領域での専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修 をはじめる場合、あるいは初期臨床研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに呉医療センター・中国がんセンター内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会が行います。
- 特定の理由（科以外への留学や勤務、妊娠・出産・育児、病期療養、介護、管理職、災害被災など）のために専門研修が困難な場合は、申請により、専門研修を中断することができます。
- 6 ヶ月までの中断であれば、残りの期間に必要な症例などを埋め合わせることで、研修期間の延長は要しません。
- また、6 ヶ月以上の中断の後に研修に復帰した場合でも、中断前の研修実績は引き続き有効とします。
- 短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算(1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とする)を行なうことにより、研修実績に加算されます。

15.サブスペシャルティ領域との連続性について

- 13 領域のサブスペシャルティ領域は、基本領域としての内科専門医研修において２年次より逐次研修を行います。専攻医の希望や研修の環境に応じて各サブスペシャルティ領域の専門研修を並行して行うことができます。

16.研修プログラムの管理運営体制

16-1. プログラム管理委員会

- 内科専門研修プログラム管理委員会を呉医療センター・中国がんセンターに置きます。
- 基幹施設・連携施設の研修委員会との連携を図ります。
- 内科専門研修プログラム管理委員会は、プログラム統括責任者（大下智彦脳神経内科科長）、事務部門、内科系サブスペシャルティ分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成されます。

16- 2. 研修委員会

- 内科専門研修委員会を基幹施設と各連携施設に置きます。
- 基幹施設の内科専門研修プログラム管理委員会との連携を図ります。
- 委員長１名はプログラム管理委員会の委員として基幹施設で開催されるプログラム管理委員会に参加します。
- 基幹施設、連携施設は毎年４月 30 日までに以下の報告を呉医療センター・中国がんセンターのプログラム管理委員会に行います。

①前年度の診療実績
　病院病床数
　内科系病床数
　内科診療科ごとの年間入院患者数
　内科診療科ごとの年間延べ外来患者数
　剖検数
②専門研修指導医数および専攻医数
　前年度の専攻医の指導実績
　今年度の指導医数・総合内科専門医数
　JMECC 指導者数
　今年度の専攻医数
　次年度の専攻医受け入れ可能人数

③前年度の学術活動
学会発表
論文発表
④施設状況
施設区分
指導可能領域
内科カンファレンスの有無
他科との合同カンファレンス
各診療科の週間スケジュール
抄読会
医局　机
図書館
文献検索システム、IT リソース
医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会
JMECC の開催
⑤サブスペシャルティ領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医
日本循環器学会循環器専門医
日本内分泌学会専門医
日本糖尿病学会専門医
日本腎臓病学会専門医
日本呼吸器学会呼吸器専門医
日本血液学会血液専門医
日本神経学会神経内科専門医
日本アレルギー学会専門医（内科）
日本リウマチ学会専門医
日本感染症学会専門医
日本救急医学会救急科専門医

17.指導医のフィードバック法の学習（FD）

- 指導医は、指導法の標準化のため内科指導医マニュアルなどにより学習します。
- 厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会を受講します。
- 指導医は、できるだけ JMECC を受講し、指導医講習会受講、アシスタントインストラクターを経てインストラクターを目指します。
- 指導医研修評価（FD）は、J-OSLER にて実施記録を行います。

18.内科専門研修プログラムの評価と改善方法

18-1.専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

- J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。
- 逆評価は年に２回以上行います。年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合は、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、および呉医療センター・中国がんセンターのプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

18-2.専攻医からの評価をシステム改善につなげるプロセス

- 呉医療センター・中国がんセンター内科専門研修プログラムの研修施設の各研修委員会、呉医療センター・中国がんセンタープログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は、J-OSLER を用いて専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項についてプログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

  １）即時改善を要する事項
  ２）年度内に改善を要する事項
  ３）数年をかけて改善を要する事項
  ４）内科領域全体で改善を要する事項
  ５）特に改善を要しない事項

- なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。内科領域研修委員会が上記と同様に分類して対応します。
- 担当指導医、施設の研修委員会、呉医療センター・中国がんセンタープログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、呉医療センター・中国がんセンター研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して研修プログラムを評価します。
- 担当指導医、研修委員会、呉医療センター・中国がんセンタープログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタしプログラム内の自律的な改善に役立てます。
- プログラム内の自律的な改善が難しい場合は、日本専門医機構内科領域研修委員会からの支援や指導を受け改善に役立てます。

18-3. 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

- サイトビジットは内科領域の専門医が互いに専門研修プログラムを形成的に評価し、自律的に改善努力を行うために必要です。日本専門医機構内科領域研修委員会から求められた場合、サイトビジットを受けいれ、適切に対応します。

19.専攻医の採用

- 呉医療センター・中国がんセンターのホームページに採用に関する情報を提示します。適宜説明会や見学会を行い、呉医療センター・中国がんセンター内科専門研修プログラムの専攻医を募集します。応募者は書類選考および面接を行い、プログラム管理委員会にて協議の上採否を決定し、本人に文書で通知します。一次選考で採用者がいない場合、二次、三次選考にも対応します。
- 呉医療センター・中国がんセンター内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER に登録を行います。

問い合わせ先

国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター　庶務係長　永島　一真
〒737-0023 広島県呉市青山町 3-1
電話　0823-22-3111(代表)
e-mail: 506-senmon@mail.hosp.go.jp
URL: https://kure.hosp.go.jp

国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター

内科専門研修施設群

基幹施設：国立病院機構　呉医療センター・中国がんセンター（呉市）

連携施設：国立病院機構　東広島医療センター（東広島市）
国立病院機構　広島西医療センター（大竹市）
広島市立北部医療センター安佐市民病院（広島市安佐北区）
広島大学病院（広島市南区）
県立広島病院（広島市南区）
広島赤十字・原爆病院（広島市中区）
広島市立広島市民病院（広島市中区）
土谷総合病院（広島市中区）
庄原赤十字病院（庄原市）
公立みつぎ総合病院（尾道市）
済生会呉病院（呉市）
特別連携施設：公立下蒲刈病院（呉市）

表1. 各研修施設の概要（２０２６年２月現在、剖検数：２０２５年度、指導医数と剖検数は本プログラム割り当て分を示しています）

	施設名	病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	呉医療センター・中国がんセンター	645	15	27	21	4
連携施設	東広島医療センター	401	7	15	20	4
	広島西医療センター	440	7	14	9	6
	広島市立北部医療センター安佐市民病院	434	7	21	21	5
	広島大学病院	742	9	90	81	7
	県立広島病院	707	11	36	26	7
	広島赤十字・原爆病院	565	10	24	22	0
	広島市立広島市民病院	743	10	44	33	9
	土谷総合病院	351	5	4	8	0
	庄原赤十字病院	248	8	6	6	1
	公立みつぎ総合病院	202	5	2	3	0
	済生会呉病院	150	4	4	4	0
特別連携施設	公立下蒲刈病院	49	1	0	0	0

表 2.各内科専門研修施設での内科 13 領域の研修の可能性

	施設名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
基幹施設	呉医療センター・中国がんセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携施設	東広島医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
	広島西医療センター	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	△	△	△
	広島市立北部医療センター安佐市民病院	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○
	広島大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

	県立広島病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	△	○
	広島赤十字・原爆病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	広島市立広島市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	土谷総合病院	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
	庄原赤十字病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	△	△	△	○
	公立みつぎ総合病院	○	△	○	△	△	△	○	△	△	×	△	△	△
	済生会呉病院	○	○	△	△	△	△	△	×	△	△	△	△	△
特別連携施設	公立下蒲刈病院	○	△	△	△	△	△	△	×	△	×	×	△	×

各施設での内科 13 領域における診療研修可能性を３段階（◯、△、×）で評価。

◯：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない

1.専門研修施設群の構成要件

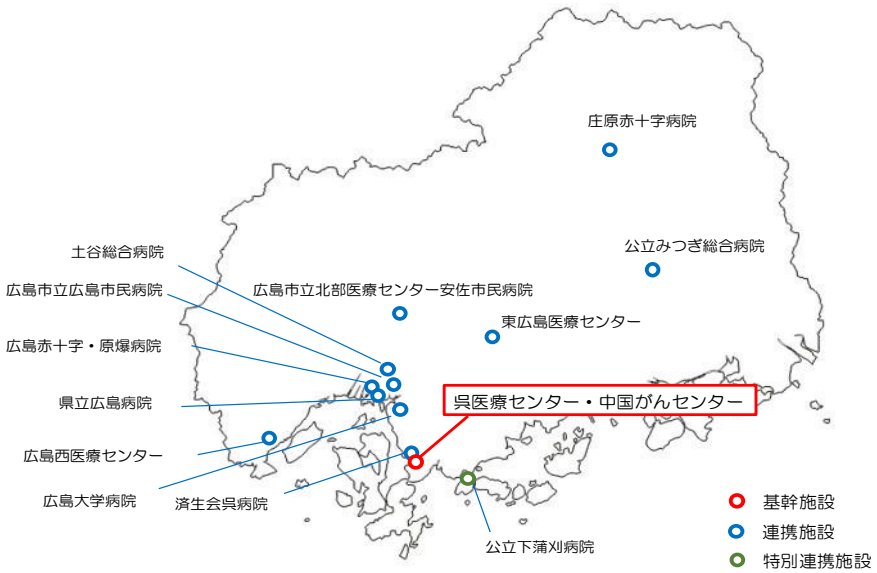
- 基幹施設の呉医療センター・中国がんセンターは広島県呉二次医療圏で唯一の３次救急指定病院であるとともにがんセンターとして全国がんセンター協議会に加盟し、先進的で高度ながん診療を行っています。救急からがん診療まで内科で必要とされる領域を網羅し、近隣の病院、診療所との深い連携を保ち、地域住民の健康を守っています。臨床研究部では、臨床研究はじめ、動物実験や分子生物学的研究が可能な実験設備を擁し、基礎研究も可能です。
- 呉地域は高齢化率が全国の都市平均を上回っており、高齢者診療が内科の中心になっています。広島西医療センターは広島県西部の大竹市にあり、コモンディジーズのほか、神経難病、血液内科、呼吸器内科を中心に研修が可能です。また、東広島医療センターは広島中央二次医療圏の中核病院であり、二次救急医療と幅広い内科系疾患を経験できます。結核病棟を有し、広島県の拠点病院として機能しています。基幹施設と広島西医療センター、東広島医療センターは国立病院機構に属しており、各種の研修を全国で受講することができます。
- 庄原赤十字病院は、広島県北東部に存在し、高齢化進んでいる地域の中核病院です。２次救急に対応する中核病院としての役割からプライマリケアといった１次救急までの対応を行っており、急性期のみならず、回復期、慢性期、在宅医療まで幅広く診療に関わることができ、包括的かつ全人的医療が経験できます。
- 済生会呉病院は基幹施設と連携をとり総合内科診療を行っています。高血圧教室において地域住民の生活習慣病予防に力を入れています。また済生丸による島嶼部の往診も行っています。呉市下蒲刈島の公立下蒲刈病院は、呉医療センター・中国がんセンターとの連携も良好であり、特別連携施設として島嶼部過疎地域での幅広い疾患の診療を全人的に行うことができます。

専門研修施設群の選択

- 専攻医２年次の秋に専攻医の希望・将来像・研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- 広島大学での研修を希望する場合、大学院への進学を検討します。
- 病歴要約の提出を終える３年次は連携施設にて研修を行い、４年次は基幹施設でサブスペシャルティ中心の研修を行います。特別連携施設は２年次に３ヶ月の研修を行い、さらに希望がある場合には最大１年間まで研修を延長できます。

専門研修施設群の地理的範囲

- 広島県呉二次医療圏と近隣の医療圏にある施設から構成しています。済生会呉病院は呉医療センター・中国がんセンターから徒歩でも 15 分程度の距離です。広島西医療センターや東広島医療センターは呉二次医療圏ではありませんが、広島県西部地域にある病院で呉医療センター・中国がんセンターとの連携が常にあります。国立病院機構での異動になるため、事務手続きや宿舎の調整も安心です。



図：専門研修施設群の位置

2.内科専門研修基幹施設

国立病院機構　呉医療センター・中国がんセンター

（勤務時間　8：30～16：30）

病床数　630 床

(一般 650 床[うち救命救急センター30 床・NICU6 床・緩和ケア 19 床]・精神 50 床)

- 地域医療支援病院
- 基幹医療施設（がん）
- 第３次救命救急センター
- 広島県災害拠点病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 母子医療センター
- 臓器提供施設
- 高度総合医療施設
- エイズ治療拠点病院
- 非血縁者間骨髄移植採取認定施設

- 地域医療研修センター
- 呉医療技術研修センター

施設基準

認定基準	● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院 ● 図書室があります。 ● インターネット環境があります。 ● メンタルヘルス相談体制が整っており、相談ページを院内 HP に掲載し相談しやすい環境を整えています。また職場復帰支援も実施しています。 ● ハラスメント対策：ハラスメント報告ページを院内ページに設置し相談しやすい環境を整えています。パワハラ、セクハラに関して必要に応じ委員会が開催されます。 ● 院内保育所があり、利用可能です。 ● 女性専用休憩室、更衣室など女性医師が安心して勤務できる体制が整っています。
研修プログラム管理委員会	基幹施設、連携施設の研修委員会との連携をおこないます。 ● プログラム統括責任者：大下　智彦（脳神経内科科長）
研修委員会	院内での研修を管理する研修委員会を設置します。 委員長　大下　智彦（プログラム委員会）
労働環境	期間職員として採用。（勤務時間 8：30～16：30） 国立病院機構の規定に従います。
診療実績	外来　18,114 名（1 か月平均総数） 入院　12,860 名（1 か月平均総数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除き、研修カリキュラムで求められる 13 領域 70 症候群を幅広く経験することができます。アレルギー、感染症はほかの領域の研修や救急外来からの入院症例にて経験可能です。

経験できる技能	● 技術技能評価手帳にある技術／技能をシミュレーションや実際の症例で身につけることができます。 ● Procedures Consult®により主な手技は映像教材で手順、適応などを確認することができます。 ● 呉医療技術研修センターは SimMan3G®1 台、レサシアンシミュレータ®2 台、SimPad®３機をはじめ、エコーガイド下 CV 穿刺トレーナなど高機能シミュレータを有するとともに、機材を管理する専門職員を配置しており、希望時にはいつでも使用可能です。同施設で JMECC を 1-2 回/年、ICLS を 1 回/年のほか、ハンズオンセミナーなどシミュレーション教育を適宜開催、近隣の若手医師が参加しています。 ● 実際の症例でも各診療科に特有な検査手技を指導医のもと十分経験することが可能です。
経験できる地域医療、診療連携	● 中国がんセンターの中核病院として病診・病病連携を行い、地域に向けた講演会も多数開催している。
研究活動	● 臨床研究部には動物実験や分子細胞学的研究を行うことができる設備を有しています。 ● 倫理審査委員会を設置し月１回定期開催しています。 ● 治験管理室を設置し各種研究の支援を行っています。国立病院機構の共同研究にも多く参加しています。 ● 基幹施設では Kure International Medical Forum（K-INT）を毎年７月下旬に開催しています。公用語が英語の学会で、専攻医も発表可能です。米国 MGH や東アジアの国々の医師・コメディカルスタッフとの交流を深めます。 ● 日本内科学会を始め内科系サブスペシャルティ領域の総会、地方会、国際学会で数多く発表しています。
教育活動	● 初期臨床研修医の症例発表の場である呉クリニカルフォーラムを年２回開催し、その発表準備の指導に当たり、座長を務めます。 ● 内科オープンカンファレンスの講師を務めます。

講習会	● 各種講習会を開催し、専攻医が受講できる時間的余裕を与えます。 ● 医療安全、感染対策、医療倫理講習会は、年２回開催し専攻医に受講を義務つけます。学会や体調不良、当直など正当な理由で受講ができなかった場合はスライド資料や DVD などで自習を行い、研修委員長が確認し事務に報告します。 ● CPC は 10 回／年、Autopsy board は 10 回／年程度開催しています。専攻医には出席を義務付けます。 ● 地域連携カンファレンス、消化器合同カンファレンスなどを毎月開催しています。 ● 内科オープンカンファレンス　毎月開催しています。専攻医は連携施設での研修中もカンファレンスに参加するよう時間的余裕を与えます。 ● 医療倫理講習会、医療安全講習会、感染対策講習会　各２回／年開催しています。 ● JMECC は 1-2 回／年（20-30 名／年　受講）開催しています。	
指導責任者	大下　智彦（脳神経内科科長） ● 当院は呉二次医療圏の「最後の砦」としての救急医療を担いつつ、がんセンターとしての機能を有しているため、研修期間中に多彩な症例を経験することができます。上級医から学び、また初期研修医に指導する姿勢を身に着けることから、幅広い領域に対応できる内科専門医になることができます。	
指導医数	日本内科学会指導医 日本内科学会総合専門医 日本消化器病学会消化器専門医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本循環器学会循環器専門医 日本糖尿病学会専門医 日本腎臓病学会専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本血液学会血液専門医 日本神経学会神経内科専門医	27 21 10 6 6 2 3 3 3 6

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養代謝学会 NST 稼働施設 日本認知症学会教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設　　など

3.内科専門研修連携施設

国立病院機構　東広島医療センター

（勤務時間　8：30～16：30）

認定基準	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院 図書室 インターネット環境あり。 メンタルヘルス相談体制が整っており、職場復帰支援も実施しています。 ハラスメント報告体制があり、パワハラ、セクハラ等に関して必要に応じ委員会が開催されます。
指導医	15 名
研修委員会	設置する。 委員長　濱田　博重
労働環境	期間職員として採用。（勤務時間 8：30～16：30） 国立病院機構の規定によります。
診療実績	外来 12,601 名（1 か月平均総数） 入院　9,358 名（1 か月平均総数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病連携なども経験きます。
研究活動	・臨床研究に必要な図書室を整備しています. ・倫理審査委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 16 回）しています. ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 16 回）しています. ・日本内科学会および内科系サブスペシャルティ領域の総会、地方会などで数多く発表しています. ・国立病院総合医学会（毎年１回開催）での発表を推奨します.
指導責任者	濱田　博重

	医療人口約 21 万人の広島中央医療圏の唯一の総合病院であり、東広島市西条町の風光明媚な丘陵地にあります。政策医療分野におけるがん、循環器病、呼吸器疾患、内分泌・代謝性疾患の専門医療施設です。401 床（周産期 50 床を含む、一般 381 床、感染 4 床ならびに結核 16 床（休床））、25 科で診療を行っております。また臨床研究部実験室もあり、分子生物学の研究も可能です。	
指導医数	日本内科学会総合専門医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本循環器学会循環器専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本神経学会神経内科専門医 日本糖尿病学会糖尿病専門医 日本血液学会血液専門医 日本腎臓学会腎臓専門医	20 6 4 6 4 3 2 1 1
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設	

国立病院機構　広島西医療センター

（勤務時間　8：30～16：30）

認定基準	初期臨床研修制度基幹型協力型研修指定病院 図書室 インターネット環境あり。 メンタルヘルス相談体制が整っている。また職場復帰支援も実施しています。 ハラスメント対策 ハラスメント報告体制があり、パワハラ、セクハラに関して必要に応じ委員会が開催されます。
施設認定	開放型病床による地元との連携 広島県災害協力病院指定 広島県難病医療拠点病院 第二次救急輪番制病院 血液疾患専門医療（無菌室 3 床）広島県骨髄移植登録病院 僻地医療拠点病院 臨床研修指定病院（基幹型・協力型） 日本がん治療認定医機構認定研修施設

	地域医療支援病院 災害拠点病院 救急告示病院 在宅療養後方支援病院 広島県肝炎指定医療機関 広島県糖尿病診療中枢病院 広島県小児発達障害地域連携拠点医療機関
指導医	14 名
研修委員会	設置する。 委員長　大谷　裕一郎
労働環境	期間職員として採用。（勤務時間　8：30～16：30） 国立病院機構の規定によります。
診療実績	外来　336 名（1 日平均患者数） 入院　389 名（1 日平均患者数）
経験できる疾患群	求められる１３領域７０症候群の多くを経験できます。
経験できる技能	技術技能評価手帳にある技術／技能を実際の症例で身につけることができます。
経験できる地域医療、診療連携	循環器、血液、神経領域の症例経験ができます。特に血液内科、神経内科の専門研修ができます。
研究活動	日本内科学会を始め内科系サブスペシャルティ領域の総会、地方会、国際学会で数多く発表しています。
指導責任者	大谷　裕一郎 プライマリ・ケアを実践し，基本的診療能力を習得するうえで，患者目線で診療にあたることが大事だと考えています。血液疾患や神経筋難病は当院の強みであるため幅広い疾患を，経験豊富な指導医とともに学ぶことができます。温かい雰囲気の当院でバランスのよい医師をめざしましょう。

指導医数	日本内科学会指導医 日本内科学会総合専門医 日本消化器病学会消化器専門医 日本循環器学会循環器専門医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本血液学会血液専門医 日本神経学会神経内科専門医	2 9 2 2 3 4 3
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本神経学会教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本認知症学会教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本病院総合診療医学会認定施設	

広島市立北部医療センター安佐市民病院

（勤務時間　8：30～17：15）

認定基準	・　指導医は21名在籍しています． ・　施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています． ・　医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます． ・　研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます． ・　CPC を定期的に開催（2025年度実績5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます． ・　地域参加型のカンファレンス（安佐学術講演会，安佐医師会内科会，安佐病診連携を考える会，安佐地区在宅心不全治療懇話会，安佐消化器病フォーラム，安佐地区呼吸器症例検討会，脳卒中連携セミナー，認知症ハート・フォーラム，藝州北部ヘルスケアネットワーク勉強会，Asa Clinical Conferenceほか）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます． ・　プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます． ・　連携施設・特別連携施設の専門研修では，電話や週 1 回の広島市立北部医療センター安佐市民病院でのネットカンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います． ・
指導医	・　指導医は２１ 名在籍しています．
研修委員会	・　施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置し、基幹施設，他の連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります．

労働環境	・　初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です． ・　勤務時間　８時３０分～１７時１５分（休憩１時間） 週5日　38時間45分/週 ・　研修に必要な図書室とインターネット環境があります． ・　広島市立北部医療センター安佐市民病院非常勤嘱託医として労務環境が保障されています． ・　メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課に保健師を配置）があります． ・　ハラスメント対応として広島市立病院機構本部及び広島市立北部医療センター安佐市民病院内に担当職員を配置しています． ・　女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています． ・　敷地横に保育所があり，利用可能です．
診療実績	外来（１か月平均） 16,093 名　うち内科系　5,568 名 新入院（１か月平均）1,258 名　うち内科系　561 名
経験できる疾患群	当院には研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
研究活動	・　臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています． ・　倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025年度実績5回）しています． ・　治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2025年度実績8回）しています． ・　日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています． ・　内科系各学会総会および地方会に積極的に参加し，学会発表しています．（2022年度実績　106題うち専攻医・初期研修医43題） ・　内科系学会誌および内科系商業誌に医学論文・症例報告論文を積極的に執筆しています．（2022 年度実績　日本語論文 10 編，英文論文 48 編うち Internal Medicine に２篇）

指導責任者	加藤雅也（内科教育責任者、副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 広島市立北部医療センター安佐市民病院は，広島県広島医療圏北部の中心的な急性期病院であり，広島市北部，北広島町，安芸太田町，安芸高田市のみならず、近隣医療圏である備北医療圏および島根県南部からの多くの患者さんが受診されています。地域に根ざし地域医療にしっかりと貢献できる内科専門医を目標としています． 社会的背景・療養環境調整を包括する全人的医療を実践し、その後の Subspeciality 研修に十分に生かしてほしいと思います。	
指導医数	日本内科学会指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会消化器専門医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本循環器学会循環器専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本神経学会専門医	21 21 10 2 8 5 5
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会専門医制度認定准教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本高血圧学会認定施設 日本胆道学会認定指導施設 日本大腸校門病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修病院 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター認定施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本胃癌学会認定施設 A 日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 など	

広島大学病院

（勤務時間　8：30～17：00）

認定基準	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. 広島大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ハラスメント委員会が広島大学に整備されています. 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. 敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.	
指導医	日本内科学会指導医 90 名在籍	
研修委員会	本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を広島大学病院に設置 プログラム統括責任者；服部　登	
労働環境	広島大学病院常勤医師（医科診療医）として採用（勤務時間；8:30～17:00）	
診療実績	外来患者 136,617 名（2024 年度） 入院患者 68,484 名（2024 年度）	
経験できる疾患群	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています．きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.	
経験できる技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.	
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.	
研究活動	日本内科学会講演会あるいは同地方会で毎年多くの学会発表をしています 2024 年度実績　26 演題）	
指導責任者	岡　志郎	
指導医数	日本内科学会指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会消化器専門 日本循環器学会循環器専門医 日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学会専門医 日本腎臓学会専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本血液学会血液専門医 日本神経学会神経内科専門医 日本アレルギー学会専門医（内科） 日本リウマチ学会専門医	90 81 30 22 12 5 10 20 7 21 4 7

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設など

県立広島病院

（勤務時間　8：30～17：15）

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院 ・研修に必要な図書館とインターネット環境あり ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課・衛生委員会）あり ・ハラスメント相談窓口が地方独立行政法人広島県立病院機構本部事務局に整備 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室を整備 ・敷地内には院内保育所あり（利用可能）
指導医	36 名

研修委員会	・設置 委員長　上田浩德（副院長・脳心臓血管センター長・循環器内科主任部長）	
労働環境	・県立広島病院常勤医師として採用 勤務時間　8：30～17：15（休憩 1 時間）38 時間 45 分/週 週休日　　日曜日及び土曜日	
診療実績	・外来　87,507 名（2025 年度延べ患者数） ・入院　77,641 名（同上）	
経験できる疾患群	・きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患の症状を幅広く経験することができます。	
経験できる技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	
経験できる地域医療、診療連携	・急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。	
研究活動	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・治験支援室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表をしています。	
指導責任者	上田浩德（プログラム統括責任者） ・広島県の中心的な高度急性期病院である県立広島病院を基幹施設として、広島県広島医療圏を中心に、県内の他医療圏（広島西、呉、広島中央、尾三、備北）の施設及び沖縄県立2病院と連携した研修施設群を構成しています。 ・基幹施設ではサブスペシャルティ専門研修に重点を置き、十分な症例数と充実した指導体制のもと、豊富な連携施設・特別連携施設での研修と併せて質の高い研修を受けることが可能となっています。 ・当院での研修を通して、疾患の治療だけでなく、患者の社会的側面、心理的側面も考慮した、全人的医療を実践できる内科専門医を目指してください。	
指導医数	日本内科学会指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会消化器専門医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本循環器学会循環器専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本糖尿病学会専門医 日本腎臓病学会専門医 日本神経学会神経内科専門医	36 26 14 3 9 7 5 2 4 3

	日本感染症学会専門医 日本リウマチ学会専門医　ほか	3 2
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設　など	

広島赤十字・原爆病院

（勤務時間　8：25～17：00）

認定基準	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ハラスメント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
指導医	24 名
研修委員会	研修プログラム管理委員会を設置し、基幹施設および連携施設の研修委員会との連携を行います。 プログラム統括責任者　澤部　琢哉（リウマチ科部長） 院内での研修を管理する研修委員会を設置します。 委員長　横山　敬生（腎臓内科部長）

労働環境	嘱託職員として採用。 広島赤十字・原爆病院の就業規則の規定に従います。 勤務時間　8：25～17：00（休憩 50 分）7.75 時間/日 時間外勤務　別途	
診療実績	外来　　26,644　名（1 か月平均総数） 入院　　14,816　名（1 か月平均総数）	
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。	
経験できる技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	
経験できる地域医療、診療連携	がんや循環器疾患・脳血管障害等の急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、終末期医療などを通じて、地域に根差した医療、病診・病病連携なども経験できます。	
研究活動	倫理審査委員会を設置し定期開催しています。 日本内科学会を始め内科系サブスペシャルティ領域の総会、地方会、国際学会で数多く発表しています。	
指導責任者	澤部 琢哉 当院は、地域がん診療連携拠点病院・地域医療支援病院・災害拠点病院であり、また医科・歯科の臨床研修指定病院でもある基幹病院です。多数の内科指導医・内科サブスペシャリティ専門医の指導のもと、主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になるための研修を受けられます。	
指導医数	日本内科学会指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本循環器学会循環器専門医 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 日本糖尿病学会専門医 日本腎臓病学会腎臓専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本神経学会神経内科専門医 日本血液学会認定血液専門医 日本リウマチ学会リウマチ専門医　　など	5 22 10 3 3 2 2 2 3 3 1 9 2

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本肝臓学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度准教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設群関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本老年医学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本胆道学会認定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・ＮＳＴ実施施設 日本栄養治療学会 NST 稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定ＮＳＴ稼動施設 日本骨髄バンク非血縁者間骨髄採取施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本骨髄バンク非血縁者間末梢血幹細胞採取・移植施設認定施設 日本造血細胞移植学会非血縁者間造血幹細胞移植施設 日本膵臓学会認定指導医制度指導施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設　　など

広島市立広島市民病院

（勤務時間　8：25～17：00）

認定基準	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です 研修に必要な図書室とインターネット環境があります 広島市非常勤医師として労務環境が保障されています メンタルストレスに適切に対処する部署（職員保健室）があります ハラスメント対応窓口が広島市立病院機構に設置されています 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています 敷地内に院内保育室があり，利用可能です
指導医	44 名在籍
研修委員会	内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者・プログラム管理者（内科主任部長，総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります

	基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します
労働環境	医療倫理講習会（年２回）・医療安全講習会（年６回）・感染対策講習会（年２回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます． CPC を定期的に開催（年６回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます 地域参加型のカンファレンス（医療者がん研修会　年６回，マルチケアフォーラム　年２回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します
診療実績	内科系外来患者延数 115,413 名/年　内科系入院患者延数 8,380 名/年 救急外来患者延数 18,138 名/年　（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます
経験できる技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます
研究活動	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野（少なくとも７分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています．（上記） ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）． ・専門研修に必要な剖検（2025 年度９体，2024 年度６体，2023 年度 10 体）を行っています． 臨床研修に必要な図書室，インターネット環境を整備しています． ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（年 11 回）しています． ・治験コーディネーター業務および事務局業務は治験施設支援機関（SMO）に委託しており，定期的に治験審査委員会を開催（年 11 回）しています． ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表（2024 年度実績５演題，2023 年度実績２演題）をしています

指導責任者	植松周二 【内科専攻医へのメッセージ】 　広島市立広島市民病院は，広島市の中心部に位置し，広島県都市部医療圏の中心的な急性期病院であり，救急医療，がん医療（地域がん診療連携拠点病院），高度医療を担っています．救急診療部，密度の高い救急医療を研修できます．都市部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修をおこない，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します． 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境整備をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります	
指導医数	日本内科学会指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会消化器専門医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本循環器学会循環器専門医 日本内分泌学会専門医 日本糖尿病学会専門医 日本腎臓病学会専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本血液学会血液専門医 日本神経学会神経内科専門医 日本リウマチ学会専門医 日本アレルギー学会専門医 日本救急医学会救急科専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 ほか	44 33 14 4 9 1 2 2 4 4 7 2 1 7 11 3
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本血液学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設	

	日本感染症学会連携研修施設 など

土谷総合病院

（勤務時間　8：30～17：30）

認定基準	研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 メンタルストレスに適切に対処する衛生委員会があります。 弁護士によるハラスメント相談窓口があります。
指導医	指導医が 4 名在籍しています。
研修委員会	基幹施設、連携施設の研修委員会との連携を行います。
労働環境	医療法人あかね会土谷総合病院の常勤医師として採用。 勤務時間　8 時 30 分～17 時 30 分（休憩 1 時間含）
診療実績	外来患者延べ 74,475 名、入院患者者延べ 80,582 名（2025 年度）
経験できる疾患群	カリキュラムに示す内科領域のうち、循環器・腎臓の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
経験できる技能	循環器疾患・腎臓疾患を体系的に把握し適切な診療・診断技術を身につけ、さらに治療技術の修練をめざします。 実際に症例に基づきながら循環器の分野で幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢者社会に対応した患者の診断、治療などを通じて、地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
研究活動	治験及び倫理審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 倫理コンサルテーション委員会、医療安全管理委員会、院内感染防止対策委員会を設置し、研修会を定期的に開催しています。（2025 年度実績医療倫理 1 回、医療安全 6 回、感染対策 2 回） CPC を定期的に開催（2022 年度実績 1 回）しています。
指導責任者	村岡　裕司（副院長・内科診療部長・循環器内科主任部長・不整脈センター長） 　循環器分野では、救急医療、心臓病や末梢血管のカテーテル治療に重点を置き、常に安全かつ有効な治療を実践できるよう努力しています。また病診連携に重点を置き、地域医療に貢献できるよう 24 時間体制で救急患者に対応するため夜間、休日を含め循環器内科スタッフが院内待機してい

	ます。急性心筋梗塞など緊急のカテーテル治療を要する際にも迅速に対応出来る体制が整っています。 　当院では県下に先駆け経皮的大動脈弁置換術を導入し、心臓血管外科や麻酔科との合同カンファレンスを行いハートチームとして治療を行っています。 　不整脈に対するカテーテルアブレーション治療は全国トップクラスの治療実績を有しており、3D マッピングシステムや心房細動におけるバルーンアブレーションなど最先端の治療を導入し良好な成績が得られています。 　３部屋の心臓血管造影室、１部屋の DSA 室、マルチスライス CT、MRI、3D 心エコー（経胸壁、経食道）など最新鋭の機器を駆使し高度な診断を行っています。	
指導医数	日本内科学会　総合内科専門医 日本循環器学会　循環器専門医 日本不整脈心電学会　不整脈専門医 日本心血管インターベンション治療学会　専門医 日本経カテーテル的心臓弁治療学会　経カテーテル的大動脈弁置換術（TAYR）ＳＡＰＩＥＮシリーズ指導医 日本透析医学会　透析専門医 日本腎臓学会　腎臓専門医	８ ９ ３ ２ ２ ５（うち指導医３名） ４（うち指導医１名）
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定内科専門医教育関連病院 日本循環器学会　循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会　研修施設 日本経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会　経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修医施設 日本不整脈デバイス工業会　ICD／CRT 認定施設 日本循環器学会　左心耳閉鎖システム実地施設 日本腎臓学会認定　教育施設 日本透析医学会　専門医認定施設 日本消化器病学会関連施設 日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡専門医指導施設 日本肝臓学会特別連携施設 日本糖尿病学会認定教育施設 など	

庄原赤十字病院

認定基準	・臨床研修指定病院である。（協力型） ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本赤十字社の正規職員又は嘱託職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する委員会（衛生委員会）があります。 ・日本赤十字社ハラスメント防止規程が制定されており、相談員を任命しています。

	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
指導医	6 名
研修委員会	臨床研修委員会を設置しており、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
労働環境	常勤医師として採用。 庄原赤十字病院の就業規則の規定に従います。 勤務時間　8：20～17：00（休憩 55 分）7.75 時間/日
診療実績	外来　455.0 名（1 日平均患者数） 入院　192.7 名（1 日平均患者数）
経験できる疾患群	血液内科等、症例の少ないものを除いて研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域連携、無医地区への巡回診療や過疎地の診療所での診療なども経験できます。また、併設する訪問看護ステーションと協力して在宅医療を経験することができます。
研究活動	・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 3 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を開催（2025 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。開催が困難な場合は、基幹施設で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
指導責任者	鎌田耕治（院長） 庄原市は広島県北東部に存在し、人口約 3 万人で、広島県の無医地区の約 4 割が当地域に存在し、また高齢化の進んでいる地域です。当地域にある庄原赤十字病院は許可病床数 248 床（一般 205 床、療養 41 床、感染症病床 2 床）で庄原市唯一の中核病院です。近隣にはクリニックが少なく、また高齢化していることなどから、2 次救急を対応する中核病院とし

	ての役割からプライマリーケアといった 1 次救急までの対応を行っています。また、急性期のみならず、回復期、慢性期、在宅医療まで幅広く診療に関わることができます。また、無医地区（帝釈地域）には広島県北部地域移動診療車を利用して巡回診療を行っています。地域医療の中で疾患別にこだわらず、包括的かつ全人的医療ができる内科専攻医を目指していきます。	
指導医数	日本内科学会指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会指導医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定 日本肝臓学会指導医 日本肝臓学会専門医 日本胆道学会指導医 日本循環器学会専門医 日本腎臓学会指導医 日本腎臓学会専門医　ほか	6 5 3 4 2 3 2 1 2 1 2 1 1
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設 日本循環器学会循環器専門医研修関連施設 日本高血圧学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養治療学会 NST 稼働施設	

公立みつぎ総合病院

（勤務時間　8：30～17：15　）

認定基準	・初期臨床研修制度研修指定病院（基幹型、協力型）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに対応する部署（総務課）があります。 ・ハラスメントに関する相談、防止対策は委員会を設置し、対応をしています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
指導医	指導医が 2 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。

	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し（2025 度実績　医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し（2024 年度実績 1 回、2025 年度実績 1 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。	
研修委員会	基幹施設、連携施設の研修管理員会との連携を行います。 ・プログラム統括責任者　：佐々木　俊雄（副院長）	
労働環境	・公立みつぎ総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 勤務時間　8：30～17：15	
診療実績	外来 1.691 名（1 か月平均総数） 入院　54.5 名（1 か月平均総数）	
経験できる疾患群	当院には研修手帳（病患群項目表）にある 13 領域、70 病疾患の症例を幅広く経験することができます。	
経験できる技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。	
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した患者の診断、治療などを通じて、地域に根差した医療、病診、病病連携なども経験できます。	
研究活動	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。	
教育活動	看護師や薬剤師、検査技師、リハビリ専門職などの多職種と連携したカンファレンスの実施、院内感染対策や、医療安全などの委員会活動、コメディカル対象の勉強会のレクチャー等 出前講座、地域交流会などの健康教室を開催しています。	
指導責任者	佐々木　俊雄 公立みつぎ総合病院は尾道市北部にあり、一般病床 130 床（一般病棟 84 床地域包括ケア病棟 40 床緩和ケア病棟 6 床）、療養病床（回復期リハビリ病棟 72 床）の合計 202 床を有し、地域の保健・医療・介護・福祉を担っています。呉医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行います。	
指導医数	日本内科学会指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本呼吸器学会専門医 日本循環器学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医	２名 ３名 １名 １名 １名 １名

学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会特別連携施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士認定教育施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設

恩賜財団済生会支部広島県済生会　済生会呉病院

（勤務時間　8：30～17：15）

認定基準	初期臨床研修制度協力型研修指定病院 図書室あり インターネット環境あり ハラスメント対策　相談窓口あり 院内保育所　あり 女性専用休憩室　専用はなし
指導医	4 名
研修委員会	設置する。 委員長　伊藤　博之
労働環境	恩賜財団済生会支部広島県済生会の規定によります。 勤務時間　8：30～17：15
診療実績	外来 2,771 名（1 か月平均総数） 入院 3,781 名（1 か月平均総数）
経験できる疾患群	・総合内科 当院は総合内科的な対応が必要な高齢者が多く入院します。 ・消化器内科 日本消化器病学会認定施設等であり指導医・専門医が在籍しています。 ・救急 2 次救急を担っており当院で対応できる範囲で救急患者の受け入れを行っています。
経験できる技能	技術技能評価手帳にある技術／技能を、実際の症例で身につけることができる。
経験できる地域医療、診療連携	・当院は全病床150床にうち140床が地域包括ケア病床であり、在宅、施設からの高齢者の急病に対する対応（サブアキュート）と、基幹病院での急性期治療後のリハビリ（ポストアキュート）や退院支援を行っています。また、訪問看護ステーションを併設しており訪問看護、訪問リハビリを行っています。 ・日本唯一の診療船「済生丸」による瀬戸内海島嶼部での健診業務を通して僻地医療に取り組んでいます。
研究活動	日本内科学会を始め内科系サブスペシャルティ領域の総会、地方会で発表しています。

教育活動	出前講座、地域交流会などの健康教室を開催しています。	
指導責任者	伊藤　博之	
指導医数	日本内科学会指導医 日本内科学会総合専門医 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会消化器専門医 日本循環器学会循環器専門医 日本肝臓学会肝臓専門医	4 1 3 6 3 2
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本高血圧学会専門医認定施設	

1-3) 特別連携施設

公立下蒲刈病院

労働環境	呉市の規定によります。市職員としての福利厚生制度が利用でき、扶養手当や通勤手当も充実しています。
経験できる疾患群	求められる 13 領域 70 症候群のうち総合内科Ⅰ、Ⅱを経験できます。 島嶼部の医療施設として診療所の診療支援を行っています。
経験できる技能	技術技能評価手帳にある技術／技能を実際の症例で身につけることができます。
経験できる地域医療、診療連携	自然豊かな安芸灘の島嶼部地域に位置し、地域医療の中心病院としての役割を果たしています。一次、二次救急の他に急性期基幹病院の後方支援病院として快適な療養を提供します。

国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター

内科専門研修プログラム管理委員会

内科専門医プログラム基幹病院として研修プログラム管理委員会（委員長・プログラム統括責任者）をおき、年１回プログラム管理委員会を開催します。

研修プログラム管理委員会

呉医療センター・中国がんセンター

大下　智彦（プログラム統括責任者、神経分野責任者）
杉野　浩（副院長、循環器分野責任者）
髙木　慎太郎（消化器分野責任者）
吉田　成人（内科系診療部長、消化管分野責任者）
髙橋　俊介（腎臓分野責任者）
伊藤　琢生（血液・感染症分野責任者）
妹尾　直（呼吸器分野責任者）
久保田　益亘（内分泌・代謝分野責任者）
徳永　忠浩（リウマチ・膠原病分野責任者）

管理課庶務係長
医局図書室　専攻医担当者

連携施設担当委員

国立病院機構　東広島医療センター	濱田　博重
国立病院機構　広島西医療センター	大谷　裕一郎
広島市立北部医療センター安佐市民病院	加藤　雅也
広島大学病院	岡　志郎
県立広島病院	上田　浩徳
広島赤十字・原爆病院	澤部　琢哉
広島市立広島市民病院	植松　周二
土谷総合病院	村岡　裕司
庄原赤十字病院	鎌田　耕治
公立みつぎ総合病院	佐々木　俊雄
済生会呉病院	伊藤　博之